授業科目等の概要

（医療専門課程作業療法学科昼間部）

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			研究法	臨床実習をふりかえり、1症例について、評価、統合と解釈、アプローチという一連の流れをレポートにまとめ、考察することを目的とする。具体的には、ゼミ形式で分野別に教員が学生を担当し、論文の書き方、まとめ方を指導し、グループごとに発表し、意見交換をする。	3・後	30	2	○			○		○		
○			解剖学実習	人体を構成する基本的な構造とそれらの立体的な構成を理解することを目的とする。四肢・体幹については筋触察を行い、起始・停止を理解する。内蔵については模型・画像を用いた学習により理解する。これらのことを説明することができる。	2・前	60	2			○	○			○	
○			生理学実習	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習することを目的とする。人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解し、レポートを作成し説明できる。	2・前	30	1			○	○			○	
○			運動学実習	リハビリにおける身体の姿勢及び動作について、どのように表現するかが重要なため、運動学的及び運動力学的分析の方法を各種運動解析装置を用いて体験することにより、リハビリにおける障害の病態を考える具体的な知識及び方法を理解する。	2・前	30	1			○	○			○	
○			リハビリテーション医学	臨床医学としてのリハビリテーション医学の実際について理解することを目的とする。リハビリテーションの理念と基本原則を踏まえて、様々な対象疾患・外傷などにおける障害内容と関連する病態生理を把握し、医学的評価とそれに基づく治療理論とアプローチ、予後などについての基礎知識を獲得すること。また、リハビリテーション場面における救命救急について、基礎知識を獲得し対応できる力を身につける。	2・後	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	脳・脊髄および末梢神経・筋等には系統だった働きがあり、様々な神経学的反応が見られる。神経内科系疾患患者の病態を理解すことができることを目的とする。神経内科系の主要疾患とそれにともなう障害の特性について、疾患概念、病態、症候、神経学的検査、画像・診断と治療、薬理、予後等における基礎知識を理解し、説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			精神医学	精神医学の歴史と基本的な考え方や方法論、また主な精神症状や疾病分類について理解するとともに、各種治療法や精神科リハビリテーションの概要、さらに今日的テーマの基本的な考え方や方法論を理解することを目的とする。主な精神現象の発生機序や疾病分類、薬理、精神医学における基本的な考え方を理解し、治療法の種類やその適応について知るとともに今日的な精神医学の基本的事項を学ぶ、説明することができる。	2・前	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			地域リハビリテーション学	障害を持って住み慣れた地域で自分らしく生活するということ、その地域での作業療法士としての役割について学ぶことを目的とする。具体的には、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム、それに準じた社会保障制度を学ぶ。さらに、作業療法士の関わる具体的事例を通して、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を含む地域リハビリテーションを説明できるようになる。	2・後	30	2	○			○		○		
○			基礎作業学実習Ⅱ	木工、陶工及び金工の作業活動が、運動機能及び精神機能にどのような影響を与えるかを考察し、対象者及び目的に合わせた作業プログラムを作成できるようにする。	2・前	30	1			○	○		○		
○			作業療法管理学	医療保険制度、介護保険制度を理解し、保健・医療・福祉における組織体としての作業療法部門の機能の質を向上させる職場管理運営についての基礎的知識を学ぶ。チームワーク、コミュニケーション、リスクマネジメント、ハラスメント等を理解し、職業倫理を高める態度を身に付ける。また、卒前教育から卒後教育までの基本的な作業療法教育に必要な能力を培う。	2・後	30	2	○			○			○	
○			高齢期評価学	高齢期に多く見られる疾患や老年期症候群の概要を理解する。また画像評価を含む、高齢期の基本的な作業療法評価とその意義を理解することを目的とする。具体的には、高齢期における作業療法評価の目的および方法について説明ができる。高齢期に多く見られる疾患や老年期症候群が、生活に及ぼす影響を考察することができ、評価計画立案、知り得た情報を課題点と利点に整理できる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			高次脳機能評価学	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法評価の知識や評価技術を修得することを目的とする。具体的には、精神・認知機能に関する作業療法評価の知識や技術を学習する。知識には、注意・記憶、空間認知、言語などの高次脳機能障害や情動・思考などが含まれる。技術では、各種検査や画像所見を含む情報収集や面接・観察などの方法を学習し、評価計画立案、知り得た情報を課題点と利点に整理できる。	2・前	30	2	○			○		○		
○			生活活動評価学	作業療法は人の生活行為を広く社会の場において支援する。それら支援を行うには、ADL の概念を理解することを目的とする。具体的には、ADL 支援を行うためには、対象者の生活機能を評価、生活行為への支援方法を検討し、実施していく。基本動作及び日常生活活動を分析し評価できるようになる。	2・前	30	2	○			○		○		
○			作業療法評価学実習Ⅰ	適切な作業療法プログラムを設定するために、作業療法士が行う検査・測定の種類を学び、習得することを目的とする。具体的には、作業療法士が実施する検査を上げるられる、検査の正常・異常の判断が出来る、各検査を行う目的を説明でき、実施することができる。	2・通	120	4			○	○		○		
○			作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法士として臨床で必要な観察からの評価の技能を習得することを目的とする。具体的には、実際作業活動分析的評価と作業療法評価学実習Ⅰで学習する身体障害の検査測定を統合し、実践することができる。	2・通	60	2			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			作業療法評価学演習	作業療法評価の一連の流れにおける思考過程（評価計画―実施―解釈―問題点と利点の抽出―目標設定）と、臨床場面で適応できる能力を習得する。	2・通	60	4		○		○		○		
○			作業治療学概論	領域の枠を超えてICFおける活動参加への支援を行うために、必要な作業療法理論についての知識を習得することを目的とする。具体的には、MTDLP・COPM・MOHOなど作業療法の理論を学び、介入の方法に結びつけて考えられる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			身体機能作業治療学	身体障害領域に関する作業療法実践に活用される、各理論・技法を身につけることを目的とする。具体的には、身体障害領域の作業療法における理論・技法を理解し説明できる。	2・後	30	2	○			○			○	
○			精神機能作業治療学	精神科および精神機能に関する作業療法実践に活用される、各理論・技法を身につけることを目的とする。具体的には、精神科作業療法における心理その他の理論・技法を理解し説明できる。	2・後	30	2	○			○			○	
○			発達過程作業治療学	脳性麻痺および知的障害を持つ疾患児に対する基礎知識・作業療法の評価法を実習し、治療への道筋を理解することを目的とする。具体的には、脳性麻痺の分類・疾患像が理解でき、発達障害・知的障害分野の各疾患の疾患像が理解でき、脳性麻痺・知的障害を持つ疾患児に対する作業療法の評価が実施できる。	2・前	30	2	○			○			○	
○			高齢期作業治療学	高齢期の対象者の作業療法の概要を理解することを目的とする。健康高齢者、高齢期に多い身体障害、精神障害、認知症、終末期等における作業療法内容の概要を説明することができる。	2・前	30	2	○			○		○		
○			高次脳機能作業治療学	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の介入原則に対する知識や技術を修得することを目的とする。具体的には、講義、映像学習、演習を通し、軽度意識障害・注意・記憶障害、失語、失行、失認、遂行機能障害などの特徴を把握しながら代表的な治療介入を理解する。	2・後	30	2	○			○		○		
○			生活適応学	社会生活の課題別に環境調整を行うための生活評価や環境調整方法を学び、理解を深める。また、障害を負ったことにより必要となった義肢、装具や自助具、福祉用具などの適応や導入時の専門的知識について学習することを目的とする。具体的には、障害を持つ方々が社会生活を送る際、社会参加する際に、それぞれの置かれている環境や提供できるサービスや使用している道具の選択や作成が出来るようになる。	2・後	30	2	○			○		○		
○			身体機能作業治療学実習Ⅰ	身体障害領域における作業療法実践に活用される評価・治療過程を学ぶことを目的とする。具体的には、身体領域における代表的疾患に対する治療計画立案ために、評価結果の統合と解釈、目標設定や治療プログラム立案の手法を学習し、実践できる。	2・後	30	1			○	○		○		
○			身体機能作業治療学実習Ⅱ	作業療法士として臨床で必要な治療技能を修得することを目的とする。具体的には、身体機能作業治療学で学習する治療理論や技術の実際を学習する。	3・前	30	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			精神機能作業治療学実習Ⅰ	精神科および精神機能に関する作業療法実践に活用される、各理論・技法を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、精神科作業療法における理論・技法の方法を理解し指示できること、精神科作業療法に活用される心理その他の理論・技能の方法を理解し指示できる。	2・後	30	1			○	○			○	
○			精神機能作業治療学実習Ⅱ	精神科および精神機能に関する作業療法実践における代表的対象疾患・障害等に対する対応の特徴を身につけることを目的する。具体的には、統合失調症、感情障害、ストレス関連障害、人格障害、物質関連障害その他における疾患・障害の特徴を理解説明できること、各疾患・障害に特有な対応方法を理解し説明できる。	3・前	30	1			○	○			○	
○			発達過程作業治療学実習Ⅰ	脳性麻痺・その他の運動障害が主たる疾患児に対して、治療計画及び治療の実践が出来ることを目的とする。具体的には、脳性麻痺・運動発達が主たる疾患児に対する治療の概念、基本的生活技能の援助法を理解し、実施することができる。	2・後	30	1			○	○			○	
○			発達過程作業治療学実習Ⅱ	発達障害・知的障害分野に関する治療計画及び治療の方法が理解出来ることを目的とする。具体的には、発達障害児に対する作業療法の治療の概念を理解し実施することが出来ること、発達障害児に対して、基本的生活技能の援助法の概要を理解し、実施することが出来ること、発達障害児の問題行動について理解し支援することができる。	3・前	30	1			○	○			○	
○			高齢期作業治療学実習Ⅰ	高齢期に多く見られる疾患に対する評価の実施、およびその結果を踏まえた作業療法目標の設定と治療計画について学ぶことを目的とする。高齢期特有の基礎的な評価、および生活活動の評価を模擬的に実施できる。評価結果を統合的に解釈し、生活行為に関わる目標の設定と作業療法プログラムの考案につなげることができる。	2・後	30	1			○	○			○	
○			高齢期作業治療学実習Ⅱ	高齢期に多く見られる疾患に対する治療の模擬実践ができることを目的とする。具体的には、虚弱高齢者、廃用症候群、認知症等の作業療法の内容を理解し、模擬的に実践できる。バイタルチェックや喀痰吸引など、臨床において必要となる基本的な医療手技を習得する。	3・前	30	1			○	○		○		
○			高次脳機能作業治療学実習Ⅰ	高次脳機能障害を有する方に対して作業療法評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。具体的には、事例をもとにグループ学習を通し、評価計画の立案と評価結果との統合、治療計画を立案していく。さらに、文献検索方法を習得していく。	2・後	30	1			○	○		○		
○			高次脳機能作業治療学実習Ⅱ	高次脳機能障害を有する方に対して作業療法評価から治療技術までの一連の流れを理解し、臨床で活かせる統合された思考を持つことを目的とする。具体的には、事例をもとにグループ学習を通し、評価計画の立案と評価結果との統合、治療計画を立案し治療介入の技術を習得する。	3・前	30	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生活適応学実習	障害を有する対象者の個々の特性に適したADL支援を提供できる。また、各疾患に合わせたADL実施方法を説明・指導することができることを目的とする。具体的には疾患ごとのADLの特徴、動作分析を講義・実技などを通して理解できる。また、各疾患の特性に合わせた生活の工夫を選択・提供することができる。	2・通	60	2			○	○		○		
○			臨床技術演習Ⅰ	実習生としての態度を身に付けることを目的とする。具体的には、症例を想定したコミュニケーションと介助、各種検査測定の一連の流れをOSCEを用いて実施することができる。	2・後	30	2		○		○		○		
○			臨床技術演習Ⅱ	実習生としての態度を身に付けることを目的とする。具体的には、症例を想定した機能障害・能力低下への介入方法をOSCEを用いて実施することができる。	3・前	30	2		○		○		○		
○			作業療法治療学演習	作業療法の一連の流れにおける思考過程（評価計画―実施―解釈―問題点と利点の抽出―目標設定―治療計画立案）と、臨床場面で適応できる能力を習得する。また、ICFやMTDLPを実践的に活用することができる。	3・前	30	2		○		○		○		
○			地域作業療法学Ⅰ	地域における障害者の生活環境全般についての理解．支援していく為に必要な知識や技術を習得し、問題解決能力を培うを目的とする。具体的には、患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していく為に必要な生活環境を関連法規・住居・施設・福祉・リハビリテーション関連機器・地域環境に分け，基本理念と知識について具体的事例を通して学習し、理解し、説明することができる。	3・前	30	2	○			○		○		
○			地域作業療法学Ⅱ	人間の職業的発達，就業の意義，職務分析，職業前評価及び障害者の就業状況を理解し、職業生活の継続を目標とした作業療法を学ぶことを目的とする。具体的には、職業リハビリテーションの理念と意義，及び歴史等について学び、社会資源や制度を理解する。職業リハビリテーション施設の見学も含めて学習を行い、職業領域における作業療法士の役割について理解を深め、説明することができる。	3・前	30	2	○			○		○		
○			臨床評価実習	各障害領域において、学内で学んだ評価に関する知識・評価技術を使い、評価の計画から実施することができ、専門職としての態度を身に付けること、対象者に対する基本的態度を学ぶことも目的とする。主な対象領域は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害となる。臨床評価実習に必要な知識や基本的技能・態度を備えているかどうかを実技試験等により確認し、自分の課題を明確にして、臨床評価実習に望み、実習後修正できたかどうかを再度確認する。	2・後	180	4			○		○	○		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合臨床実習Ⅰ	各障害領域において、学内で学んだ治療計画立案から治療の一部を、実習指導者の指導の下で実施することができることを目的とする。その内容には観察・評価の実践及び記録・報告までを含む。また、専門職としてふさわしい行動ができること、作業療法部門及び関係部署との連携を学ぶことも目的とする。主な対象領域は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害となる。総合臨床実習Ⅰに必要な知識や基本的技能・態度を備えているかどうかを実技試験等により確認し、自分の課題を明確にして、総合臨床実習Ⅰに望み、実習後修正できたかどうかを再度確認する。	3・通	360	8			○		○	○		○
○			総合臨床実習Ⅱ	総合臨床実習を踏まえ、治療計画立案から治療の一部を、実習指導者の指導の下で実施することが出来ることを目的とする。また、専門職としてふさわしい行動が出来ること、作業療法部門及び関係部署との連携を学ぶことも目的とする。主な対象領域は、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害となる。総合臨床実習Ⅱに必要な知識や基本的技能・態度を備えているかどうかを実技試験等により確認し、自分の課題を明確にして、総合臨床実習Ⅱに望み、実習後修正できたかどうかを再度確認する。	3・後	360	8			○		○	○		○
○			総合統合演習Ⅱ	これまで学習してきた作業療法に関する総合的な理解を深めることを目的とする。具体的には、作業療法国家試験出題分野（専門・専門基礎分野）について、国家試験出題レベルの解釈ができる。国家試験の出題パターンを理解し、過去問題に関連する知識を統合することができる。	3・後	120	8		○		○		○		
合計				43科目	3420時間(160単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件)3年以上在学し、学則第16条により課程修了の認定を受けた者。 (履修方法)3年以上在学し、理学療法士及び作業療法士法の規定により、学則別表1の授業科目を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週